



キャリア教育の文部科学大臣表彰

帝京大学小学校 校長 石井卓之

本校の各学年で実施しているキャリア教育の実践が認められ、2月6日(木)に文部科学大臣表彰を受けました。当日は、本校と帝京大学との合同研究会があったために表彰式には出席できませんでしたが、後日表彰状が本校に送付されて、学校のホームページにアップするとともに1階に掲示しました。これは、キャリア教育の実施に対する後援会からの予算支援を受けることができた結果です。また、子どもたちが意欲的に取り組み、アイデアやチーム力などを発揮して活動してくれた総合的な結果でもあります。今回の新1年生の入試でも、縦軸としての各教科の学習指導と横軸としての帝京大学グループが掲げる「実学」を実践するキャリア教育、里山教育、プログラミング教育、英語教育、ICT教育の5つの特色を評価していただいた結果、50名の新入生が入学してきます。

日本だけでなく世界の企業で求める人材のトップ3は、コミュニケーション力、主体性、挑戦意欲だと言われています。本校で行っているキャリア教育は起業家教育の内容を多く含みますが、そのねらいは起業家になることを目指すのではなく、市場調査、会社を立ち上げ販売、売り上げの使用目的を考えるなど、課題解決型の学習です。今年度の5年生の起業家教育は、ゼロティーと授業を作り出して3年目となり、教育ネットから3Dプリンターの支援を受けて進めました。その学びの過程には、企業が求める人材の3つの力が必要となり、探究の学習の中にはその力を育成する要素が散りばめられています。5年生の総売り上げは約20万円となりました。先週までその使い道について何度も話し合いがもたれ、決まるまでには多くの時間がかかりました。担当からの報告では、「①先生方にアンケートをとり学校のために何か物を寄贈する、②メディアセンターにマンガを寄贈する、③新1年生へのプレゼント、④校外学習を企画する、⑤修学旅行で使う、⑥募金する」に決まったとのことでした。大きな金額を多くのメンバーで決める、当然簡単にはいきません。その中で、「多様な他者からの支えがあって成功した企画である」ことに気づき、「自分たちのためにだけ使うのではない」とう方向性が出てきたことはすばらしいと思いました。この時

間も、教師主導で進めることはできませんでしたが、敢えて「任せる」ことで試行錯誤の中から学ばせる過程は重要だと感じています。

低学年のキッズニア遠足、3年生以上のキャリア教育イベント、4年生の帝小カフェ、5年生の帝小カンパニー、6年生のバリ島と連携したチョコレートワールド、これらの学習を通してプレゼンテーション力は特に伸びていることを実感しています。保護者の皆様のご協力に感謝申し上げます。



バスボム

アロマオイル

帝京大学小のフィギア

職員室の窓

先日、高校の教員をしていた時の教え子から連絡があり、再会する機会がありました。高校時代、親の言うことに反抗し親の文句ばかり言っていた彼女は、結婚して、母親になっていました。「子育てはどう？」という私の質問に、「本当に大変です。でも、自分の子どもが簡単なことでも毎日いろいろな新しいことをできるようになって、そのたびに感動しちゃってます。」と優しい笑顔で答えてくれました。

教員という職業は、様々な場面で子どもが『できるようになった!』という瞬間に立ち会うことがあります。実際の母親でも感動するようなその素晴らしい瞬間に立ち会えることを幸せに思い、子どもたちと過ごす1分1秒を大切にしていきたいです。



《教頭 等々力将仁》